

インターネットトピック: World IPv6 Dayについて

IPv4アドレスの在庫枯渇がいよいよ現実のものになり、IPv6の必要性は広く認識されるようになってきています。しかし、IPv6の導入はなかなか進んでいません。世界ではさまざまな接続環境で機器がインターネットに接続されているため、IPv6を導入した際の影響を計りかねているように思えます。このため、著名なコンテンツ事業者が率先して世界的なIPv6のトライアルを行い、広くISPや関連組織にIPv6の導入や問題点の検討を促す、World IPv6 Dayが考えられました。このプロジェクトに最初に参加を表明した企業は、Google、Facebook、Yahoo!、Akamai、Limelight Networksで、ISOC*1 (Internet Society)がプロジェクトに関するWebページ*2を作成しています。参加組織やプロジェクトを手助けする人々の間で議論が続けられ、プロジェクトの概要も決定しました。日程は、IANAが管理するIPv4アドレスの中央在庫が枯渇した後で、準備が整えられる日が選ばれました。

日本時間での2011年6月8日(水)午前9時に、World IPv6 Dayに参加するコンテンツ事業者は、そのメインコンテンツをIPv6に対応させます。つまり、ホスト名にAAAAレコードを付加し、その状態を24時間にわたって維持します。すでに世界各国の多くのサイトが参加し、現時点で日本からもいくつかのサイトが参加を表明しています。当日は、IPv6でアクセスできるコンテンツが増えることとなります。一方で<http://www.ij.ad.jp>等、すでにIPv6対応したサイトも多数あるため、いまだにIPv6のトライアルを実施しなければならない状況は、ある意味で悲しくもあります。しかし、World IPv6 Dayを通じて全世界に対してIPv6の導入が促されるのであれば、有意義なことだと考えています。

日本では、JANOG*3 (JAPAN Network Operators' Group)等を通じてWorld IPv6 Dayの情報を提供するとともに、2011年4月13日には主にISPに呼びかけWorld IPv6 Dayの傾向と対策ミーティングとして情報提供と議論を行いました。ユーザがIPv6の開域網に接続した場合、利用している

端末の実装やアプリケーションによっては問題が発生することが分かっています。アプリケーションをバージョンアップする等で問題の回避は可能ですが、World IPv6 Dayへの積極的な参加のためにはユーザによりよいIPv6接続環境を提供することが最も大切です。しかし、日本では、まだ提供手段が限られているため、当日までにIPv6接続を提供できるISPは限られています。ユーザサポートでユーザにバージョンアップを勧めたり、ポリシーを変えて適切なプロトコルを選択できるようにしたりする等の、対応を検討する必要があります。また、ISPによっては、不要なフォールバックを回避するために、DNSキャッシュサーバでAAAAレコードの応答を抑制する対策を検討するかもしれません。

World IPv6 Dayの情報を日本語で提供するサイトとして、<http://www.attn.jp/worldipv6day/>が開設され、4月13日に開催されたミーティングでの発表資料なども公開されています。また、財団法人インターネット協会、IPv6普及・高度化推進協議会、ISOC日本支部(再活性化中)、WIDEプロジェクトの連名で、この活動を推進する旨のアナウンスがWorld IPv6 Dayの開催案内として会員組織に送付されています。World IPv6 Dayへの参加を検討されている事業者の方は、ここに示したURLやISOCのWebページを確認され、参加の手続きを行っていただきたいと考えます。また、ISPは、当日の混乱を最小限に押さえるためにも、影響を想定し実施可能な対策を事前に検討していただきたいと思います。

IPv6の円滑な導入は、インターネット利用にとって大きな課題であり、また挑戦でもあります。現在はWorld IPv6 Dayの開催に向けて、参加団体や協力団体がその準備、計測、必要な対応等について、活発に検討を続け実装を進めています。今回のWorld IPv6 Dayの取り組みが成功に終わり、今後のIPv6の導入や次回のWorld IPv6 Dayの開催に向けて有意義なものになるように、IJでも関係団体と協力しながら活動を続けていこうと考えています。

執筆者:

松崎 吉伸 (まつざき よしのぶ)

IJ サービス本部 ネットワークサービス部 技術開発課 シニアエンジニア。

*1 インターネット関連の標準化や教育、ポリシーに関して先導的な組織として設立された国際的な非営利団体。

*2 ISOC(Internet Society)のプロジェクトに関するWebページ (<http://isoc.org/wp/worldipv6day/>)。

*3 インターネットに関する技術や運用に関する事項を議論、検討、紹介するグループ。